

国内 IGF 活動活発化チーム第 66 回会合 発言録

2025 年 11 月 4 日

加藤： それでは定刻になりましたので、予定通り、第 66 回の活発化チームの会議を開催したいと思います。皆さんお集まりいただきましてありがとうございます。最初に日本政府からのお話をいただくということで、寺村様お願いできますでしょうか？

総務省寺村： はい。聞こえていますでしょうか？

加藤： 聞こえております。すみませんまだ集まりが悪くて大変申し訳ないです。

総務省寺村： そんなに言うほど進展があるわけじゃないんですが、しかも私も出てたわけじゃないんですけども、10 月の中旬にニューヨークで WSIS+20 の第 2 回ワーキンググループが行われたということで、その辺簡単にいくつかかいつまんで情報をお話したいと思います。元々これ WSIS+20 ゼロドラフトについていろいろ議論していたところですけども、特にドラフトの中で、いろんないくつか要素が入ったと思います。というのは、一つ一つは人権をちゃんと尊重しましょうという話であるとか、あるいはそのデジタル格差の解消をどうしていくかという話、なくしていかなきゃいけないですよという話がありました。もう一つは、一番我々として関心の高いものは IGF の継続をどうしていくのかという話ですね。はい。といったところがまずメインなところとして議論されているところでございます。特に人権尊重とかデジタル格差解消、この辺については当然というか、ほぼ全ての国が支持してるという感じなんですけども、IGF の継続についてもほぼほとんどの国が無期限延長というか、恒常化について賛成している状況です。それ以外はいわゆる国連の GDC、グローバルデジタルコンパクトとの統合をどうしていくのかという話がある中で、これについては、基本的に統合であるとか整合性をちゃんと持ってやっていきたいと思いますというのが EU、カナダ、オーストラリア、イギリス、フィリピン、オランダといったようなところで、一方でロシアが GDC の合意から離脱するような、離脱というか距離を置くような話をしています、その辺が慎重であったというようなところが対立軸としてあるかなというふうに思っています。それ以外には例えば G77、いわゆる発展途上国の集団とか、あとは中国、キューバ、イラン、こういったところがですね、いわゆる何か、何か加盟国とかで問題があったときに何か制裁とかするといったような項目だけは絶対入れないようにしろというような、そういったような部分を明文化しようといったことを結構要求しているといったところが一つ印象に残っているかなという感じです。それ以外は、AI ガバナンスについてはまた何かそのパネルみたいなものの新設を支持していたというのが G77 とか中国であったりする一方で、カナダ、オーストラリア、イギリスそれから日本もそうなんですけども、基本的には既存のプロセスを重視していくと言ったところが、まだこれから整理していかなければならない部分かなというふうに思っています。あとはその資金メカニズムの話ですね。この辺の強化を要求しているというのがやっぱり G77 と

か中国であって、我々としてはその新規の基金に慎重であるということで、既存のイニシアティブ、これは当然 IGF とかも含めて、既存のイニシアティブの活用とかをなるべくしていくべきだということところが対立軸としてあります。これについてはまた 12 月に国連の方で議論されてきますので、我々として引き続き取り組んでいく所存でございます。以上です。

加藤： どうも寺村さんありがとうございます。多岐に渡っていろいろご報告いただきましたが、皆様ご質問等ございますでしょうか？結構最後の方までもめてるという感じですよ。

総務省寺村： 私自身もさっきも言ったように現場にいなかったの。別の G7 の会合があって、これ出られなかったんでその辺の温度がよくわかんないんですが、少なくともレポートを見る限りまだいくつか、特に G77 っていうか発展途上国と先進国との間の隔たりある部分ってのはいくつかあるなという、そういう印象を受けました。はい。

加藤： ありがとうございます。ここに来てドラフトへのコメントが何かどんどん増えてるようなきらいもありますけれども、収束してる部分っていうのはあるんでしょうかね。

総務省寺村： 今のところこのワーキンググループ以上の動きは見てないというか、まだないんですね。これからどういうふうに収束していくのかっていうのは、我々もまだ測りかねているというそういう状況でございます。

加藤： ありがとうございます。他皆様ご質問いかがでしょうか？特によろしいですか？これから後 1 ヶ月の勝負ってということで、結構目が離せないのかもしれませんが、もしまた機会がございましたら寺村様ぜひご披露いただければと思います。

総務省寺村： 引き続きよろしくお願ひします。

加藤： もしおいでになるのであれば、後でも御質問させていただくかもしれませんので、よろしくお願ひします。はい。それでは次のアジェンダ項目ということで、MAG からの報告ということで私加藤の方から簡単に報告させていただきます。ちょっと長い資料ですが、黄色いところだけハイライトしながら。前回の活発化会議以降 2 回 MAG がありまして、10 月 1 日と 10 月 22 日でございます。黄色のところだけ主に見ていただければ。この資料も公開しますので、後で見てもいいんですけれども。まずいつも会議は事務局からの最近の動きっていうか報告があって、一つは 22 日のときもそうだったんですが、NRI と連携して NRI 活動についていろいろ情報を収集してそれをフィードバックして、後で申し上げますけれども、来年以降の NRI 活動のツールキットですか、そういうものに反映したいっていう話がありました。それから今の WSIS+20 のコメントに関してマルチステークホルダーサウンディングボード (IMSB) からの情報ということで、いろいろゼロドラフトに対するコメントとかそういういろいろなところとの働きかけもやってるんですが、ICANN のダブリン会議で加盟国の方々との意見交換をするっていう話がありまして、さっき前村さんの名前出したのも、ここにいら

っしやる方もおいでになっている方がいらっしやればぜひご報告いただきたいんですが、ICANN 会議でどんな動きがあったのかなってというのはまた伺えればと思います。それから以前からですね、今年の MAG は特別に 1 年だけのものということでやってきておりますけれども、来年以降の MAG をどうするか、IGF が継続する前提でですね、MAG がいろんな活動を今後変えていくということを考えておまして、この議論が結構大きな議論になっています。それで新しいメンバーが来年以降また入ってくるわけですが、そういった人たちに対してガイドラインを作るとか、そのためのウェビナーシリーズ、MAG のメンバーが主催するウェビナーというのは最近 WSIS に関連してとかいろいろやっております、そういうことを引き続きやっていくと。それから NRI との連携とか、ダイナミックコアリションとの連携を強めるってということで、互いにいろいろ連絡役を置くようにしたらどうかというような話がございます。これまだやり方確定ではないですが、1 人 2 人、そういう人をオブザーバー的に出すということを議論しております。それから四つ目の項目、MAG の中の作業部会、それから IGF の期間に関するいろんな作業ですけれども、これはちょっと読んでいただければ、いろいろこういう活動をやってますっていう中で、特に大きなことはなかったと今思います。NRI との関係で、MRI の内部構造の改善に向けたいろいろな意見、情報収集をするってことで、さっき申し上げたように IGF の事務局と NRI で今コミュニケーションしていて、それを来年以降ツールキットの見直し等に反映するっていうことも繰り返しお話がありました。もう少しスクロールしていただけますか、22 日の方。ありがとうございます。22 日の方ですけれども、前にも申し上げましたけれども IGF のウェブサイトの検索機能をさらに強化するというので、これはインストールされたという説明がありました。それから先ほどもあった IMSB ですね。これに関してさっきと重複しますけれども、ICANN の会議でやはり意見交換をするというのが繰り返しありまして、これ ICANN 会議の直前の 22 日の会議でしたのでこの形でしか議論をご報告することはございません。それから、改良についても、さらに 22 日もう少し議論がありまして、ステークホルダーとの協議セッションを増やすとか、プログラムや会議の作業において、IGF コミュニティのニーズを反映させるためのいろんなコミュニケーションを考えると、MAG としては今回 IGF 自体の改革についてもより具体的な議論をいくつかやっております、例えばその次に出ております三つ目のポチですけれども、具体的なプロジェクトを紹介するようなラボセッションとか、そんなことやったらどうかと。これまだ決定ではなくていろいろそういう意見を出しているということでございます。それからワークショップの改善といいますか、そのためにもワークショップの主催者に対してトレーニングをするとか、説明のツールキットのようなものを作るとかそういう議論もございます。それから、ワークショップ自身の見直しとか、MAG のメンバーからいろいろなコミュニティに対して連絡役を設けたり、それから地域の IGF に対して意見を収集したりするような、そういう仕組みも作りたいということもありますし、マルチステークホルダーの要件を見直したらどうかというような議論がありました。これも昔から出ていることですが、そこがどうも曖昧であるというような意見もありました。次に行っていただいて、作業部会との関係ですけれども、これちょっと面白いところですね。実は多言語の作業部会っていうのがあるんですけれども、これ中国系の方がやってらっしゃいますが、中国語での全て MAG の会議の結果について利用可能にな

ったということで、ご覧なった方がいるかもしれませんが、IGF の Web サイトに MAG とか NRI とか主なものの結果を見れるようなサイトがあって、大体 MAG の場合も 1 週間とか 10 日経つと簡単なまとめが出てるんですけども、そういうものも中国語でできるようになったというような話がありました。それからさっき申し上げたようにダイナミックコアリション(DC)の関係で、さらに MAG のいろいろな調整をするという具体的な提案があって、過去 MAG メンバー 1 人が DC に対する連絡役として任命されましたが、これをもう少しフォーマルにやろうという話がありました。それから NRI について、これも繰り返になりますけれども IGF の事務局でいろいろ行った調査について集計を取って報告すると。これおそらく山崎さんから少し触れられるかもしれません。ということで、今回は 11 月 18 日に予定しております。MAG からは以上でございます。もしご質問等あればこの場でお願いたします。MAG 自身は 6 月の会議以降、来年はまだ見えないので、こういういろんな仕組みの整備っていいですか、若干細かい内容ですけどもそういうことに時間を費やしているってということと、WSIS 等の外の動きの情報をここで交換していると、この二つが主な活動でございます。ご質問、今よろしいでしょうか？それでは引き続き NRI についてお願いできますでしょうか。山崎さんお願いしてよろしいですか。

山崎： はい。NRI について報告しますと、10 月 30 日に今年 10 回目の NRI の会議がありました。時間は書いてある通りです。議題は主にさっき加藤さんの MAG の報告でも触れていただきましたけれども、NRI についてのアンケート調査です。これの予備の結果を共有することに主に時間を費やしました。その他としては、一番目はユネスコのインターネット普遍性指標、IUI っていうらしいんですけど、これは時間切れで後回しってことで、追ってメーリングリストで共有されるそうです。次いで国別 IGF の設立の際のマルチステークホルダー運営委員会の背景っていうのが結構直前に議題として追加されました。1 行目はさっき言った通り予備調査結果ということでかなり長いアンケートなんですけども、その結果について共有されて、その検討に焦点が当てられました。全部の NRI から回答が提出されてなかったのが、期限を延ばして今週 6 日木曜日までということになりました。リマインダーは既にもう送付されています。言語が障壁になる場合というのは先ほど MAG の報告でもありましたが、そんな感じですね。暫定の調査結果からは、NRI の運営方法、持続可能性、協力について成功事例と懸念事項が既に示されているということがわかったということで、全部回答が収集できたら事務局はより視覚的な報告と記述の報告を作ることです。調査結果は来年以降の活動に反映されるということですね。IGF 事務局が支援に特に関連する調査結果は個別にフォローアップをされるということ。あとは急遽追加されたマルチステークホルダー運営委員会というのは各 NRI になければいけないっていう決まりになっているんですけども、そのメンバーを選ぶ際に、例えば日本の場合、日本国籍とかって考慮すべきかというのは、大勢は別に国籍は関係ないだろうと、日本にいる方だったらどなただっかっていいんじゃないかっていう感じだったんですけど、もしくは、日本人で日本国外に今いらっしゃる方っていうのもありんじゃないかっていうそういう感じでした。そこは要件じゃなくて、委員会のメンバーが、状況理解でニーズに応じてキャパシティビルディングに取り込む

ことが重要だということでしたけども、国籍も考慮要素の一つじゃないかって指摘したところもあります。次回は 11 月 3 週目を予定していて、これから日程調整ということです。その予備調査結果なんですが、これが確かフォームが 8 ページあって、私も予備の予備で最初に作ったときに試しに入れてみたんですけど大変でした。なのでちょっと最初の締め切りには間に合わなくて、日本として記入提出できてないんですけども、さすがに 6 日の締め切りには間に合わせなければいけないだろうと思いますので、あと正味 2 日しかないですけど、何とか入れて加藤さんと事務局、JPNIC および JAIPA にはお見せして確認を提出できればと思います。(資料) ちょっとこれ長いので説明していると時間かかりますので、既にリンクしてありますので、興味がある方はご覧ください。私からは以上ですけども、何かご質問等あればお願いできればと思います。よろしいですか?では加藤さんにお戻しします。

加藤： はいありがとうございます。一点ちょっと。NRI で国籍の議論が出たのは、やはり国籍主義っていうふうに今まで考えたことなかったんですけど、IGF で NRI を考えるとき国籍主義が原則だったんですかね。

山崎： いやそれはないと思いますけどね。私は NRI ツールキットを暗記してるわけじゃないんで。ただ例えば日本 IGF のマルチステークホルダー運営委員会のメンバーが日本人なきゃいけないなんていう記載は多分どこにもないと思います。

加藤： そうですよ。

山崎： その国にいらっしゃる方なら、どこの国の方だって参加して構わないし、IGF ってそもそもそういうものってあまりそこをかつちりとするっていう考えが、そもそもなじまないんじゃないって私は個人的には思いましたけれど。

加藤： はい。ありがとうございます。私もそんなふうに思ってたんですけど、今まで考えたことなかったの。

山崎： ただいろんな国があるので、中には違う考えをお持ちな国別 IGF もあるかもしれないですね。

加藤： 多分センシティブティーが非常に高い地域とか国があるんだと思うんですよ。これが出てきてるっていうのは。

山崎： そうですね。

加藤： ちなみに ICANN なんかもそうですけれども、国というのは、国籍っていうのが何かあるのかなと思ったのは、私、20 年前に ICANN の理事選挙っていうのがあったときに、たまたまアメリカにいたけれども日本代表で出させていただいた記憶があるので、国連の場合とかその辺が関係するのかなっていうふうに思ったんですけどね。まあ、あまり大きな話じゃないです。あとアンケートの内容で、

ここはちょっとセンシティブっていうか答えにくいっていうところをお感じになったことはなかったですか？山崎さんからご覧になって。

山崎：そうですね、マルチステークホルダー運営委員会っていうところで質問がいっぱいありましたけれども、今機能していないので日本では。

加藤：そういう形で取り扱ってないので、私もどう答えていいのかなって思ったんですけど。

山崎：だからそこは正直に事情を書くか、今体制整えてるところなのでまだ動き出すには至ってない、など何かそういう書き方をするのか。ちょっとそこはご相談するかもしれません。

加藤：そうですね、要するに 10 人程度の運営委員会的なものがこうであるという説明がしにくいので、ということですよ。

山崎：そうですね。

加藤：そこはありのままを答えるしかないので、考えさせていただきます。ご質問等ございませんか？他。もしなければこの機会に NRI もいろいろとレビューがあって全体的にも WSIS でも NRI の重要性ってのは非常にみんな認識されているので、それをこういう形で議論する上にも改善するっていう議論が進んでいるということだと思います。

それでは次のアジェンダ項目に移らせていただきたいと思います。次はその他の会議ですね。前回の報告会を 10 月 8 日にあって、あれですけれども、次回、来年の会議をどうするか。これについては前回も一応今度の 12 月のニューヨーク見て議論するみたいな感じだったんじゃないでしょうか。

山崎：そんな感じだと思うんですけど、ただ 12 月 16、17 です 67 ですからそれを見てからよりちょっと腰を上げたんだと。年明けすぐには開催しづらくて結構時間かかるんじゃないかなと思ったんで中身はともかく、いつ頃開催とかってはい。動き始めた方がいいのかなと思った次第なんですけどもいかがでしょうか？

加藤：皆さんいかがですかね？皆さん 2 月 3 月だとどちらがいいんですかね？それとももういつそのこと 4 月にした方がいいのかっていうことですか？基本的な年度でいうと 2 月か 3 月、2 月はちょっと厳しいですよ？時間的に皆さんご意見ございますか。山崎さん事務局的には、3 月とかでできますかね。

山崎：そうですね。厳しいですけど事務局としてはできないことはないですけど、JAIPA さんがどうですかね。事務局という意味では。

加藤：立石さんいらっしゃるんで確認したいんですけど、立石さん、聞こえておりますでしょうか？ちょっとまだ入ってこられないですね。話せない状況かも知れない。

山崎： わからないですけども

加藤： できれば。はい。はい。

山崎： 総務省さんは年度末の状況はいかがでしょう。

加藤： 寺村様と宮本様。

総務省寺村： まず国際の関係で言うと、正直まだ見えないというのが正直なところですよ。空いてれば当然参加しますが。今のところ何か予定入ってるかと言われると、3月15、16にAI関係の会合があるぐらいしか今見えてないです、3月は。

総務省宮本： お世話になっております。データ通信課の宮本です。こちらはまだ先が見えない状況ではあるんですけども、3月だとICANN（会議）がありますよね。なので、そのスケジュールも見ながらかと思えます。

加藤： ICANN（会議）はいつなんですか？

総務省宮本： 7日から12日がICANNですね。

加藤： そうすると3月、先ほど15、16も合わせると17日か24日、3月後半の2週間のどこかでやるとしたら結構厳しいですね。この時期っていろいろ年度末でもあり。

山崎： 例年IGFが11月か12月にあってIGF報告会を2月にやってたんでそのときも3月は大体皆さん忙しいんで2月の方がマシという意見が多かった。

加藤： そうですね。

山崎： 2月は2月で大学同士教えてらっしゃる方だと期末試験があって忙しいとかいろいろおありかもしれないですね。うん。ちょっと今回はこれぐらいにして、

加藤： これ3月じゃなくて4月とかでも行けなくはないわけですよ。年次総会ですから。

山崎： そうですね。今年度の中についていう縛りがなければ、別に何が何でも3月までにやらなくても。

加藤： 年度っていうのは日本の年度であって、普通はカレンダーイヤーですよ。

山崎： そうですね。

加藤： そういう意味では、だから一度去年は（事前会合を5月に）やったわけで。

山崎：そうですね。ツールキット見ますと、年次報告を各 NRI が IGF 事務局に対してせよとなっているので、だから報告はやったと言えばやったんですけども、今年 12 月までの内容を IGF 事務局に報告すればよくて、1 月以降何やったかは来年報告すればいいということじゃないでしょうか。

加藤：はい。では 3 月、あれですけども次回の会議までにもう少し調整して 3 月最後の 2 週間でやるか、4 月か少しタイミングを見て、4 月か 5 月にあるか、それを諮らせていただくということでしょうか？ そのようにさせていただければと思います。

ということでその他の会議ですけども、今宮本様もご発言いただいたんですが、ICANN の会議に出られて先ほどの WSIS+20 の関係もありますし、ICANN の会議でご報告とか何かいただくことございますでしょうか？

総務省宮本： ICANN に関しては私、GAC（政府諮問委員会）の方の会合に出ていたんですけども DNS 不正利用であるとか NewgTLD の関係とか ICANN 関係のいろいろな話題については、今回はこれまでの議論のフォローアップというふうな感じですかね。申請者ガイドブック、次の新 gTLD ラウンドを行うにあたっての議論というのもだいぶ進んできて、今回理事会で決議されたところですけども、そういうふうな話で今後どういうふうに我々の GAC としてフォローしていくかみたいな感じの話があり、DNS Abuse も先般 PDP といって今後ポリシーを新しく定めるというふうな話が出てきましたので、具体的にそれをどういうふうに進めていくかというふうな話が議論されたところです。WSIS+20 の話もファシリテーターの方ですか、ケニアの方なんですけど、その方にご参加いただいて GAC とも共同のセッションを持ちました。その中では特に議論が紛糾するというふうなことはなくて、例えば中国からは中国も完全にその WSIS 担当の政府の方ではないと思うんですけども、そもそもゼロドラフトすごい長くてわかりづらいところもあるけれども、これまでの議論とかも踏まえて、今後も進めてくことが大事だよと一般的な話、プラスアルファわかりやすさもうちょっと出して欲しいみたいな感じの話が出たりとか、それぐらいの話であまり突っ込んだ議論があったわけではありませんでした。とりあえず GAC の方で見えてる範囲では以上でございます。おそらく前村さんとか他 ICANN 参加された方から補足などあるかと思うので、そちらよろしく願いいたします。

加藤：どうもありがとうございます。今の宮本様の GAC のご報告について何かご質問ございますか。特にございませんでしょうかね。他に ICANN お出になった方で、例えば先ほどのサウンディングボードとのセッションとか、こういうことがあったとかご披露いただくようなことございますか。勝手に名前を出してあれですが、高松さんは参加されたんですかね。お見受けした方の中で、まず高松さんのお名前が見えたもんですから。

高松：はい。指名いただきました高松です。申し訳ありません。内容についてはちょっとこの場で共有するほどの何か動きがあったかっていうとあまりなかったかなというのが正直なところで、今加藤さんがおっしゃったサウンディングボードのセッションがスケジュール上はあったんですけども、

完全にクローズドでそのメンバーになっている人のみですということ、どういった話があったかというのはいちと正直わからないというところです。何か他の人で部屋に入ろうとサウンディングボードメンバーの人に、質問してる人も行っていい？みたいに聞いている方もいらっしたんですけど、ちょっとメンバーの方はそこへも控えてくださいみたいに、あの結構言っているような印象でした。

加藤： サウンディングボードとはもう本当に政府の方、限られた政府の方だけだったんですか。

高松： そこも分からなくて、サウンディングボードのメンバー内だけで、多分今ゼロドラフトの意見募集とかをいろいろ受けて課題が出てきてそれどうするかみたいな議論をしてるそうなんですけど、そちらの方の議論が行われたのかもしれないっていうところで。

加藤： サウンディングボードだけの内部じゃなくて、確か予定ではサウンディングボードに行ける人と、これ多分リモートでも参加されたんじゃないかと思うんですが、ICANN にいらしている政府の方とのミーティングっていうそういう趣旨だったように思ったんです。

高松： そうなんです。むしろ私はそこでよくわかっていなくてすみません。

加藤： 私は全くもちろん呼ばれてないのであれですけど。もし何かアップデートいただくことがあればと思っただけで、情報がなければ結構です。突然ご指名して申し訳ありません。今飯田さんが入ってこられたからひょっとしたら言い出すのかもしれないですけど、ご存知ないかな。

山崎： サウンディングボードの案内を見ますと、サウンディングボードメンバーとファシリテーターで何かクローズな会議をやったように書いてあるんで。

加藤： そうですかはい。

山崎： サウンディングボードメンバーは民間の人ばかりですよ。確か。

加藤： 基本的にはそうですね。MAG とリーダーシップパネルの人ですね。確か民間の人だけど、MAG のキャロル（・ローチ）なんていうのが入ってたと思います。彼女は政府ですね。だけどあんまり GAC 的な政府じゃないような気がしますけれども、そうですね。

山崎： それはですから当事者が何か発表してくれない限りはちょっとわかんないですよ。

加藤： そうですね。わかりました。失礼しました。

それでは、先ほど私ははしょってその方に飛んでしまったんですが、その前に関連するとかその他の会議で日仏会議っていうのがあって、メインのセッションが 16 日の午後と 17 日丸一日あって、今ちょっと出していただいて山崎さんからご報告いただくのが一番いいかも知れないです。概要を教えてくださいませんか。

山崎：10月16日午後と17日は終日フランス大使館で、フランスのドメイン名登録管理機関 AFNIC アフニックって言うんですけど、ここと慶應義塾大学 X Dignity Center と在日フランス大使館、この三者共催でインターネットガバナンスに関する日仏会議 2025 が開かれました。JPNIC は特に主催団体ではなかったの事前に情報共有しづらかったんですけども、開始直前になって、リモートだったら誰でも参加できるってことになったので活発化チームのメーリングリストでお知らせしたと思いますけども、現地に30人ぐらいオンラインで約10人というふうに書いてありますね。フランス側からはアカデミアの方が多かったですけども、ここに書いてあるように、新興技術、AI ガバナンス、マルチステークホルダーによるガバナンスモデル、インターネット利用におけるトラスト、人権のデジタルガバナンスへの組み入れで、デジタル試験とかいろいろテーマが取り上げられて結構難しかったと思いました。いくつかテーマがあって、ちょっとお待ちくださいね。五つのテーマ、新興技術とAI ガバナンス、二つ目のマルチステークホルダーモデルガバナンスモデルのところは JPNIC から前村が登壇しました。インターネットの利用に関して、信頼をどのように導入するかっていうセッションで、人権を埋め込むにはというのを対立する見方で、最後国境を超えるデジタルの交換と、デジタル主権に関するスペシャルセッションということで、この最後のセッションでは結構インターネットガバナンスについて議論がされたと思いますけれども、慶應義塾大学の村井教授、あと加藤さんも登壇者として発言されました。このセッションだったと思いますけれども、フランス IGF のセバスチャン・バシヨレ氏、ICANN 会議でもおなじみだと思いますけども、その3名が一番目立ったかなということで、このセッションのモデレーターは、慶應義塾義塾大学の太田恵子先生でしたっていうあたりですけども、加藤さんどういったことをお話になったかとか、この最後のセッションでどういう議論が行われたかってことをちょっと簡単にご紹介いただけたらもっと理解が深まるんじゃないかと思うんですけどお願いしますか。ミュートになってます加藤さん。

加藤：ごめんなさい失礼しました。いつもフランスから来て我々に意見交換の場を与えていただいている (AFNIC の) ルシアン (・カステックス氏) が、先ほどのセバスチャンと一緒に企画をしていただいている、それに慶応大学の方で日本側のカウンターパートとしていろいろ企画をしていただいていたところから呼んでいただいたわけですけども、私、ルシアンから日本の IGF 活動がどうなってるかっていうことを報告するようになっていうことを聞いておまして。日本の IGF として1ヶ月か3週間ごとにこういう情報交換の会とそれから最近では勉強会をやっておりますという話をしまして、その後 IGF を我々はどう見ているかということで、私マルチステークホルダーの参加って非常に重要なことで IGF だからこそできる部分があるというお話。それから NRI っていうものが非常に役立っていて176のNRIがあり、日本でもこういう事やっておりますということでご紹介して、あと日本で、みんなが日本の活動をさらに盛り上げるために法人化の議論をしていますっていうのも最後申し上げました。ということで、日本側でこういう活動をしているっていうことと対比する形で、セバスチャンがフランスでの IGF 活動報告をしてくれてその後質疑応答があったんですけども、大変良い機会で、フランス側の出席者も、またぜひ来年以降も継続的にこういうことをやりたいということ

言っていただきましたので、ぜひもっともっとこれを広げる形で。今回述べてみますと多分 40 人以下ぐらいは現地でも参加されていたと思いますが、もう少し事前に準備してこの IGF の活発化チームの方々にも、自由に参加していただけるようになるといいなと思っております。在日のフランス大使館に非常に積極的にこれを支援していただいて、いろんな方々が日本に渡航する費用も用意されたというふうに聞いておりますので、こういう機会を継続できるようにっていうことを、今後も話して続けていきたいというふうには思ってます。私からは以上ですけど、ずっと聞いていただいていた宮本様とか、もしコメントがあれば。ここにいらっしゃる方だと立石さんも参加されてましたかね。何かコメントがあればと思いますけれども。

総務省宮本： 私からは、一部だけの参加でしたけれども、いろいろなご議論がされていて大変勉強になりましたということで、ありがとうございますということだけお伝えさせていただきます。

加藤： いつも突然振って恐縮です。他、大丈夫でしょうか。もしご質問等あればですけども。NRI の活動、この活発化チームの活動自身が NRI なわけですけども、他のチームとの活動って非常に重要だというふうに思いました。その中でアジアパシフィックの中で APrIGF もちょうど終わったばかりで、こういうことをやって日本からもできるだけ参加っていうことを考えているけれども、まだまだ日本からの参加が十分できない部分もあるっていうなことも、議論があったというふうに思っております。皆さんご質問等ございますでしょうか？

もしなければちょっと時間も限りがありますので、次のアジェンダアイテムの勉強会ですね。今日この後飯田様にご講演いただくことになっておりますけれども、それ以降について何かご提案があれば、この場でも結構ですし、ぜひ事前他薦でお願いしたいと思います。今日時点ではまだ山崎様何も次のスケジュールはないですね。

山崎： そうですね。特にご提案はまだいただいてないです。

加藤： ぜひ、お願いしたいというふうに思っております。引き続き募集中です。ということで、他の会議という意味で APrIGF がこの日仏会議の直前までネパール主催ということで、残念ながらリモートであったわけですが、これについてはどなたか。ご報告いただくことができますでしょうか？感想でも何でも結構ですけども。もしご指名してよろしければというかいつもですが、立石さん最後のクロージングのセッションでもパネルに参加されていたと思いますが、何かの感想でも結構ですけどもご報告いただくこといかがでしょうか？まだ立石さん完全に参加モードになってないのかな？そういう感じですね。もしご参加の方がなければ、山崎さんもかなり聞いてらしたと思うんですが、いかがだったでしょうかね。今年の感想としては。

山崎： そうですね、私、一応...

加藤： 日中私が入ると必ず山崎さんのお名前を拝見したんです。

山崎： いや、やはりリモートだけだとちょっとなかなか入ってこないというか、聞いたことは聞いたけどって感じで、ちょっとこれだけ日数が経つと記憶もだいぶ薄れちゃったんですけど、やはり元々ネパールで開催を予定してたってことで、南アジアからの参加者がすごく多くて、すごく彼らのパワーを感じました。その分、東アジアの人の存在感がすごく薄くてですね、日本でやるときにそういう感じだとまずいなということで、日本が再来年手を挙げるということでそれまでにいろいろ準備しなきゃいけないことが多いんじゃないかなと思いました。あとはですね、ちょっと具体的に何を議論したが、思い出しづらいんですけども、やっぱり単に聞いているだけだと入ってこないところが、実際に参加者同士とかパネリストとインタラクションがあるとすごく理解が深まるっていう体験はしましてですね、ちょっと具体的に何についてだったか覚えてないんですけども。確かニュージーランドからのフェローの方だったと思いますが、その方とチャットでずっと議論してて、確かにこうやって議論するとすごく理解が深まるんだなっていうのはすごく強い印象に残った覚えがあります。表層的な感想しか言えなかったんですけど、あと、日本にいらっしゃる方で APrIGF のフェローとして参加された方がいらっしゃったんで、その方が今日申し込まれたんで、いらっしゃれば感想をお伺いしたかったんですけど、まだ入ってこられてないですね。IGF 活動に興味をお持ちの方のような、留学生の方っぽいんですけども、引き続き参加していただければなと期待はしていますということで、私からの感想は以上です。

加藤： 他、聞かれた方とかご感想をいただく方ございますでしょうか？ 特にございませんか。

山崎さんと同じで、私も所々興味があるセッションは聞かせていただいたんですが、やはりリモートオンリーっていうのはだいぶ臨場感が違うというか、どのセッションも大体三、四十人ぐらいで最後のクロージングもそんなに多くなかったですね。オープニングとかクロージングも何百人っていう感じではなかったんですが、大体いつもオンラインで繋がってる方が三、四十人ぐらいでセッションによってはチャットで質疑が結構できるという、むしろオンラインだとそういう形でいろんなコミュニケーションがあるのかなと思った反面、やはり臨場感が伝わってこなくて、質疑もあまり盛り上がらなかった部分が多かったようには思いました。ということで、やはり APrIGF を今後やるとしたら、そういう直接いろんな方にお会いできるっていうのはすごく貴重かなっていうのが、私再認識いたしました。それからこれ断定というわけでも何でもないんですけども、一番最後に頭に残ったのが、今年、全く予期せぬことで、APrIGF ネパールがリモートオンリーで実際かなりがドットアジアの香港のチームがサポートしてたっていう印象がありまして、多分ネパールで主催するぞということで準備されていた方々はかなり不完全燃焼だったと思うんですね。それで最後のクロージング時も、来年こそ、ネパールでフィジカルなミーティングをやるっていう話があるっていうことをお話ししている方がいらっしゃいました。したがってもう 1 回来年 2026 年はネパールになるのかなっていうような印象を受けました。これまだ、もちろん確定ではないのかもしれないんですけども、そういうことを情報としてご提供しておきたいと思います。あと皆さんいかがでしょうか？ これもう早速ずいぶんい

ろいろまとめた資料が出ていて、ドキュメンテーションはやっぱり立派で、これ日本で開催するときこういうことをどうフォローしていくかっていうのはかなり APrIGF の事務局とも調整してやる必要があるなっていうふうには思いました。

山崎：これは MSG、MAG の APrIGF 版ですけども、その中にドキュメントのレビューチームっていうのがありまして。そこが結構積極的に関わってると思いますね。これが明日水曜 5 日水曜日お昼過ぎ 13 時が、ごめんなさい。それは MSG 会議かですね。9 日でした。今週末日曜日 9 日の 23 時 59 分 UTC ですから月曜日の朝 9 時前がコメントの締め切りということですので、これは成果文書的なものなので、目を通していただいてご自身が何か関わったところについてはコメントをされると良いのかなと思います。でもこれが結構サクサクとひと月ぐらいで出来上がるってのはすごいですね。これがドラフトゼロなので締め切って、また MSG 内のワーキンググループで精査して、また皆さんにリバイス版を公開してそれにコメントをつけてもらうっていうのを、もう 1 サイクルやるんですかね。これが APrIGF のすごいところだなと私個人的には思っています。1 ヶ月どころかその日から数えて 20 日間しか経ってないんで、中実際 17、8 日が出てきたわけで、なかなかこれは我々にはこういうことができるのか。だからかなり頑張ってると思いますね。

加藤：そうですね、リモート会議の進め方のロジですね。それも結構スムーズに香港側からやってるなっていう感じがしましたので、その辺も今後勉強していく必要があるようには思いました。ということで、あと最後 5 分になりましたので、そろそろラップアップをしたいと思いますが、ここまでで何か追加のコメントとかご質問とかございますでしょうか？もしなければちょっと今日お伺いしたいと思ってるのが、次回の会議を 12 月の頭にやるのかどうか。12 月 1 日か 8 日の月曜日ってことであれば、その 2 日あたりが候補かと思うんですけども、そのあたりでもう 1 回やった方がいいのかそれとも 12 月の 6 日でしたっけニューヨークでの WSIS の会議が終わった後にやった方がいいのかその辺皆さんいかがでしょうか？これまだいらっしゃれば寺村さんなんかその辺のサジェスションいただければありがたいと思うんですが。

総務省寺村：まず私の個人的感想から言うと、例えば 12 月の頭にやろうと思った場合、何か報告することがあるかって言われるとあんまりないような気が。

加藤：そうですね。

総務省寺村：なのでそういった意味でいうと、WSIS+20 の終わった後の方がこんなことありましたよっていう報告はできると思います。

加藤：年末の押し迫ったときですけど、その方が次に繋がる議論ができるかなっていうのもあるんで。

総務省寺村： そういうのが一つですね。あともう一つは、私 12 月上旬は、G7 の会合があっておそらくモンテリオールの方にはずっと行ってるので、そういった意味では多分そちらの準備に結構時間取られちゃって、できればそういった意味から言っても後半の方が助かります。

加藤： ありがとうございます。山崎さん手を挙げていただいてご意見あると思いますが、山崎さんお願いします。

山崎： 寺村さんにお伺いしたいんですけど、11 月 14 日に全ステークホルダー向けの WSIS+20 コンサルテーションがあるとなってるので、多分その直後ぐらいに政府間交渉があるんじゃないかと思いましたんで。

総務省寺村： はい、今のところちょっとあんまりどういうふうになるのか我々もまだ見えてないところではあるんですけど。

山崎： だからゼロドラフトの次の版ですね。[Revision 1](#)というのが今週 7 日に出るというふうに UN のサイトに書いてあったんで、それが出て 14 日にコンサルテーションがあって、その後政府間会合なり交渉が 1 サイクルあるので、WSIS+20 の本会合の前に何か進展があるのか、逆に押し返されるのかもしれませんが、そこで 1 回何かできることがあるといいなと思ったんですけど。ただ無理は申し上げられないんで、モンテリオールから出ていただくとかというのは大変だとは思いますが。

総務省寺村： まず、私が日本にそもそもいるかどうか問題ってのが一個あるんですけど、今のところ、11 月の後半であればいいです。12 月のおそらく 5 日ぐらいから多分日本にいななくなっちゃうので、もし何かやるとしたらその間で、そのさっきも言ったまたドラフトが出てきたときにどこまでの話ができるかということだと思います。ただ正直言うと、日本のスタンス自身は全然変わるわけではないので。あとそれ以外の動きがどれぐらい見えてくるかってそれだけだと思います。

山崎： わかりました。ありがとうございます。

加藤： もう時間もあれですが、今伺った感じでは、その時点で伺って何か我々からインプットしたりとかそういうことができるかっていうと、現実的にはもう皆さんほとんど意見はもう出尽くして紙もみんな提出したのももう公開までされていて見えてるので、多分、舞台裏の内容で今こうなってるってことを、我々が伺ってコメントするよりは、12 月にこうなったっていうのがタイムリーに伺う方が、何か意味があるような気がするんですけども、いかがですかねその辺。

総務省寺村： 私自身、正直言うとどちらでもいいですとしか言いようがないです。

加藤： よくわかりました。

総務省寺村： 例えば、途中経過報告するというのはできると思いますが、さっきも言ったように繰り返しになりますけど、日本のスタンスが全然変わるわけじゃないので。

加藤： そうですね。今こういうことをまた中国が言ってきましたとか、そういうふうなことがあれば別ですけど。山崎さん、よろしければ12月の20日前後を次回ってということで勉強会も含めて、そういうふうにさせていただいた方が何かホットなニュースとして皆さん興味があるかなって気もしますがどうかでしょうかね。

山崎： 私は結構ですけど、できれば私でない、どなたかのご意見を。

加藤： そうですね。他の方でぜひ、どちらがいいというご意見があればお伺いしたいんですけども大丈夫ですか。もう独断と偏見で12月後半、WSIS+20に関する国連の総会（決議）後を目指して、勉強会も併せて検討するというので今日のところはこれで決めさせていただければというふうに思います。ということで皆さんありがとうございました。ちょうど時間になりましたので、これから本命の飯田様のお話を伺うふうにしたいと思います。どうも一時間ありがとうございました。